みなみの里だより

社会福祉法人 志紋福祉会
〒901-0333
糸満市字喜屋武1207番地
電話098-997-3900
知的障がい者更生施設
みなみの里
発行責任者 久手堅栄子

ノーマライゼーションは入所施設の解体を意味しない

社会福祉法人 志紋福祉会
理事長　久手堅憲一

「君と小生の青春時代の思い出に」と、学生時代に京都や奈良の郊外の寺院、神社などを散策した親友の一井義先生(元神戸学院大教授・心理学専攻)から『同志社・その一〇〇年のあゆみ』と『キング・オブ・キングス』(映画のパンフ)の資料を送ってきた。お互いに後期高齢者に入りつつある今、友情のありがたさを深く味わい噛みしめております。

この資料の中に、みなみの里の将来を考えるうえで貴重な新島襄先生のことばが添えられていた。「神霊の炎は人の心を熱する。此の火は唯日夜、求めてのみ得られるべきものである」、「この事業たるや、決して一新島の事業ではありません。実に神の御事業であります。先ず二百年後を期せねばなりません」(新島襄言志録)と。

近年、施設から地域への名のもとに、あたかも入所施設の解体が急速に展開されるのでは…と入所施設経営者・職員にとって施設の先行きが不透明で不安な状態にあったが、このほどやっと施設解体論が止まったようである。

ノーマライゼーションの理念の提唱者、デンマークのバンクーミケルセンも入所施設を否定していないとのことである(小室豊充新春社会福祉経営セミナーで江草安彦先生談)。平成一九年の「沖縄県のすがた」によれば、沖縄県の住宅の持ち家比率は四七都道府県中四六位で、住宅延べ面積は四四位となっており、障害者が在宅で生活するにはきびしい環境のようであり入所施設での支援も重要だと思う。

志紋福祉会・みなみの里も来春は創立二五周年を迎える。新島襄先生のように二百年先を見据えた事業とまでは行かなくとも、利用者・地域の人々から言われ百年後も生き続ける施設づくりに邁進して、一井先生の温情に報いるとともにみなみの里の一層の充実・発展に努めたいと思う。

社会福祉法人 志紋福祉会
基本理念

一、愛のサービス
私たちは、『命どう宝』の生命尊重の精神を守り、社会生活における弱い立場にある利用者が『安心』して、喜びと希望に溢れた愛のサービスの実践に努めます。

二、笑顔のサービス
私たちは、来る人を誠意を以って受容し、利用者と希望を語り合い心を癒す笑顔のサービスを実践して利用者の自立(自律)と能力の開花を実現するように努めます。

三、優しさのサービス
私たちは、この理念を実現するため、つねに『わざ』と『感性』を磨いて利用者に優しいサービスを提供し、『お客さんの満足度』並びに『地域社会の満足度』を高めるよう最善を尽くします。

1月の誕生日者

徳嶺　清美…1月 2日(42歳)
金城　国子…1月11日(39歳)
島袋　和子…1月13日(51歳)
仲座　和成…1月14日(36歳)
新里　　要…1月19日(41歳)
照喜名泰子…1月25日(51歳)
照屋　勝三…1月26日(36歳)

1月30日(土)にジェフ豊見城店にて誕生会を開催。
チョコケーキにロウソクを立て、みんなで誕生日の歌を歌い、要さんと国子さんが代表してロウソクを吹き消し。
ハンバーガーやチキン、コーラにジュース、コーヒーとそれぞれが好きなものを頂き、楽しい誕生会外出でした。

12月の誕生日

久保田博明…12月 1日(36歳)
大城　峯男…12月13日(69歳)
内間　博志…12月20日(43歳)
金城　守男…12月23日(32歳)
上原　和彦…12月23日(43歳)
仲本　　保…12月23日(49歳)

12月はインフルエンザの蔓延により、残念ながら、誕生日の外出が中止となりましたが、後日にみんなでプチ外出を決行！
ケーキは用意できませんでしたが、マクドナルドで好きなハンバーガーや飲み物を頂き、ドライブをしてプチ誕生会を開きました。

新人職員紹介

知念盛裕　支援課

みなみの里に勤務して約2ヶ月経ちました。
最初の頃はとても緊張して大変でしたが、今は少し慣れて利用者とのコミュニケーションも楽しいです。
早く良い支援ができるよう一生懸命、頑張って行こうと思います。

外間澄江　総務

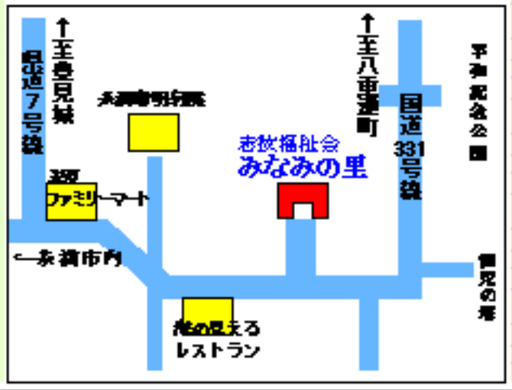
初めまして！
12月からみなみの里でお仕事させてもらっています。とても活気があってパワーあふれる職場だなぁーと感じています。
これからいろいろ体験していきたいです。
よろしくお願い致します。

與那覇 慎　生活介護

1月からみなみの里で勤務しています。
知的障がい者施設での仕事は初めてで、分からないことも多いのですが、介護施設で働いた経験を生かして努力したいと思います。

嘉数栄子　支援課

昨年7月からみなみの里で土日週末、洗濯・ハウスキーピングをさせて頂いています。
よろしくお願いします。



編集後記
昨年12月中旬より施設において、新型インフルエンザが大流行しました。感染者の拡大を防ぐ為、利用者は朝昼・夕3回の検温、職員は出勤前の検温を行うなど、早期に発見、感染者に接触しない、させないよう努めました。
日課を中止とし、忘年会も中止となり、感染した利用者へは隔離生活が続き大変な思いをさせてしまいましたが、皆で協力し乗り切ることが出来ました。
健康で笑顔で新年を迎えることが出来たことに感謝します。(T・M)

園長
久手堅米子

『須磨人　フェアプレイの翠さん』

ヒョンな縁で一人の男の人が、園長室へ入って来られた。丸顔で笑顔の素敵な方です。今朝、神戸から沖縄に着き、これから沖縄戦で亡くなられた、島田観県知事のお墓参りをして、明日帰られると言うのです。

私共夫婦は年に二度、一度はお正月、二度目はみなみの里の祭り前に、摩文仁の丘にたっている数個の塔と、特に島守の塔のお参りは欠かした事はありません。

いつも、お墓様でと、感謝の気持ちを伝えています。神戸に帰られましたその人、須磨人から便りが届きました。それはその方々が発行されたフリーペーパーでした。ご紹介いたします。

「島田観（しまだあきら）」

この人の名前を一体どれだけの人が知っているでしょうか。明治三十四年須磨に生まれ、西須磨尋常小学校から二中・三高へと進み野球選手として活躍。東大卒業後は官僚となって各地に赴任。昭和二十年沖縄県知事となり、自らの運命を沖縄と共にした人。「自分が行かねば誰かが行かねばならないではないか。自分は死にたくないから誰か行って死ねとは言えない。」そう言って沖縄行きを決心したという。在任期間はわずか五ヵ月。しかし、島田さんが沖縄に残した足跡はとても大きい。

（つづく）

保護者会長
遠座次春信

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年は寅年です。寅年は動くと言う意味があり、春が来て草木が発生する状態を表しているそうです。又、寅は決断力と才知の象徴ともされております。これにあやかって利用者の方々も日々精進して自立心を養い、健康で和やかな年になるようにと心から祈念いたします。

昨年は後半になってインフルエンザが園内に流行したようですが、幸いに理事長、園長以下職員の方々のおかげで全利用者が健康を取り戻したことについて、保護者の一人として深く感謝をしているところです。

園におかれましては、今年も利用者の福祉増進、生活環境の更なる改善に取り組んでいただくようお願い申しあげます。

私ども保護者も、利用者のためなら万難を排してでも園に協力していく所存であります。

一方、現在の「障害者自立支援法」については解消されるのか、改善されるのか、今後ともその状況を注視していきたいと考えております。

つきましては、保護者が結束して園へ協力し、利用者のために活動していくようリードしていくのが私の役目だと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ゆいフェスティバル

11月28日（土）、うるま市石川会館にて「ゆいフェスティバル」が開催されました。今年のみなみの里の出し物は「琉神マブニー（摩文仁）ショー」

ストーリーは、みなみの里が大切にしている【愛】、【笑顔】、【優しさ】のうち、【笑顔】が「ヌ・スーラー」達に盗まれ、村人達の笑顔が無くなり、それをみなみの里の守り神の琉神マブニーが取り返すという物語。利用者さん達は、練習の時からとても楽しそうに取り組まれていました。その結果、本番は大成功でした。

新年会

1月17日（日）に『みなみの里・新年会』が、たくさんの保護者の皆さんのご臨席のもと、地域交流ホームにて行われました。

今回は『生年祝い』も一緒に行われ、入所棟から5名・なのはなから3名・生活介護から1名の計9名のお祝いをしました。新年らしく豪華な折詰弁当を頂きながら、祝いの踊りや利用者の余興、太鼓やカチャーシーで盛り上がりました。

初詣

1月2日（土）遠田神社にマイクロバスで初詣に行きました。

天気に恵まれ、早い時間に出発したので渋滞も無くスムーズに参拝する事が出来ました。

昼食は北谷町のステーキ専門店でとんかつとステーキを頂き、皆、満足していました。

もちつき大会

1月9日（土）に、市社協にて毎年恒例のもちつき大会が行われ、みなみの里の利用者も参加してきました。

杵を使いお餅をついて、つき立てのお餅をたくさん食べて、楽しい一日でした。